

これまでの専門部会について

1. 令和4年度 第1回専門部会

開催日時
令和4年6月8日 18:00～19:40 であえーる会議室1

主な意見等
 ・ヤングケアラーという言葉が最近聞くようになったこともあり、デートDVと同じように当事者が気付いていないと思う。
 ・お手伝いなのか、担っているのか、境目が難しいと思う。本人からも、判断が難しいのかなと思う。
 ・本人が気付きにくい問題と皆さんからも指摘があったが、周りの大人も気付きにくい。
 ・子育て支援センターに何もかも集中して、家庭相談員が大変だと思う。現状でも既に大変なのに、パンクしてしまう。
 ・ヤングケアラーは、18歳で区切って大丈夫だろうか。大学生でも、小学生の頃からずっとヤングケアラーということで、見逃されているケースもある。
 ・ヤングケアラーは、虐待の扱いに近いイメージ。
 ・自分の家族を相対化することで、他の家と違うことに、声をあげても問題ないということを認識させるのも教育だと思う。
 ・今回の専門部会で特によかったことは、家族支援だということがはっきりしたこと。

2. 令和4年度 第2回専門部会

開催日時
令和4年10月21日 18:00～19:15 であえーる会議室1

主な意見等
 ・現状の相談件数を見ても、かなりの数であり、特に虐待対応件数も増えている状況を見ると、増員を検討すべきでは。
 ・北海道の実態調査結果から、内容も知っている子どもが思ったよりも多い印象。
 ・LINEを夜にするというのはよくあることだが、返信を翌日に1人ですするというのは、自身の判断だけでなく、いろいろな判断も必要になる。
 ・前回の会議でも確認したが、ヤングケアラーの支援は子どもへの支援だけでなく、家族への支援ということ。
 ・まだ具体的な支援の形が見えていないので、そこが見えてくると手も挙げやすくなっていくと思う。信頼関係の構築も大事だが、見通しもわからないと声もあげにくい。

現状の相談体制について

・子育て総合支援センターにヤングケアラーコーディネーターを配置

→令和5年4月より、従来の家庭相談員1名に加え、ヤングケアラーコーディネーターを1名、また主任1名の新規配置に伴い、相談体制を増強。

相談支援体制

	R4	R5
家庭相談員	1名	2名
保育士	1名	1名（主任）
臨床心理士	2名	2名
作業療法士	1名	1名
育児支援員	1名	2名
合計	6名	8名

・市内の実態について

→毎年実施している実態調査の結果。

	R3	R4	R5	備考
何らかのケアをしていて生活に支障のある児童	17人	18人	16人	R5の内訳（要対協10、教育相談6）

令和5年度の主な取組状況について

・パンフレット等の配布について

→岩見沢市内各学校にポスター・パンフレットを配布。

・教員を対象とした研修会の実施

→日々子どもたちと接し、家族以外の身近な大人である教員を対象とした研修会を実施した。
 講師：北海道ヤングケアラー相談サポートセンター長 加藤 高一郎 様
 対象：教員
 参加人数：32名（小学校：13校18名、中学校：9校12名、高校：2校2名）
 実施日：7月27日
 方法：各校より2名程度を参集し、講演形式で実施。

・研修会に参加できなかった教員への対応として、研修時の映像及び資料の公開

→7月27日に実施した研修会は、録画を行い、教員が閲覧可能なクラウド上に映像と資料を合わせて公開し、各自で研修してもらうよう各学校へ周知した。

・放課後児童クラブ等職員を対象とした研修会の実施

→ヤングケアラーへの正しい知識の習得と早期発見のため、放課後児童クラブ指導員等を対象とした研修会を実施した。
 講師：北海道ヤングケアラー相談サポートセンター長 加藤 高一郎 様
 対象：児童館厚生員、放課後児童クラブ指導員・補助員
 参加人数：64名（対象69名中64名参加 参加率93%）
 実施日：11月1日
 方法：厚生員等研修会のテーマとして、ヤングケアラーをテーマに実施。

・主任児童委員を対象とした研修会の実施

→ヤングケアラーへの正しい知識の習得と早期発見のため主任児童委員を対象とした研修会を実施した。
 講師：光が丘子ども家庭支援センター 主任相談員 浅沼 寿実 様
 対象：主任児童委員
 参加人数：14名
 実施日：12月22日
 方法：主任児童委員部会の研修会のテーマとして、ヤングケアラーをテーマに実施。

・支援策について

→ヤングケアラーのいる家庭への支援として特別育児支援ヘルパーを派遣し、状況の改善を目指す。

特別育児支援ヘルパーについて

目的	家事及び育児の支援を行うことで、子育て家庭の身体的及び精神的負担を軽減し、保護者の養育やヤングケアラーの支援に資するとともに、児童の見守りを行う。
支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家事 ・育児 ・その他必要な家事及び育児 ・家族の保育所や病院等の送迎 ・保護者や児童の相談支援 ・母子保健や子育て支援施策等の情報提供
派遣時間等	<ul style="list-style-type: none"> ・午前8時～午後6時 ・1日1回2時間を上限 ・派遣回数については、岩見沢市子育て支援推進会議にて決定
費用	無料
利用状況	2家庭にヘルパー派遣。そのうち1家庭がヤングケアラーのいる世帯。

令和 5 年度 えみふるふあいるに関する専門部会 結果報告

“えみふるふあいる”（以下、ファイル）は、令和元年 9 月より 1 歳 6 か月健診から配布が開始した。ファイルを普及し、効果的に運用するため、保護者や支援者側への具体的な活用例や、支援者の活用意欲の向上に向けた取り組みを中心に審議した。

1 ファイルの配布状況

ファイルの配布主体である 1 歳 6 か月健診だけでなく、その他の支援機関においても必要部数が配布されている。出生数の減少により、配布数は減少している。

2 令和 5 年度の取り組み

【1 市民への周知（1-1 3 歳児健診での活用状況アンケート結果）（1-2 市内イベントでの P R）】

1-1 3 割がファイルを持っていると回答した。ファイルの活用促進の取組により、保育園等で活用しているという回答が増加した。一方で、減少した項目についてアンケートの回収方法が対面から紙面に変わり、事務局側の意図が伝わりきらなかったことが要因として考えられる。

1-2 市内イベント“あそびプロジェクト” “いわみざわ健康まつり”にてファイルの P R 活動を実施した。

【2 関係機関における「えみふるふあいる」活用の促進（2-1～2 学校・療育機関での説明会、2-3 園の調査）】

調査の中でファイルの活用を辞めた園があり、活用することがプレッシャーになっている可能性もある。何かあった時にファイルと一緒に見て、支援のきっかけになればよい。ファイルの存在を知ってもらおう声掛けが大事。

【3 新たな活用の機会の開拓（就学時健診での活用）】

就学時健診でのファイルの活用をプレで実施。問診票のコピーをファイルに綴ってもらった。就学時に向けたオプショナルシートが少ない状況である。

3 今後の取組の方向性

【1 保護者の意識を維持する（ファイルを持っていることへの意味/登場機会を増やす/今後の活用予定を知る）】

現状の取組の継続、イベントでの周知、オプショナルシートの活用促進、ライフステージごとにチェックシートの作成、就学時健診での活用について説明した。オプショナルシートやチェックシートは、全員に当てはまるものではなく、色々なパターンがあってよい。成績表については、学年ごとにチェック項目があって欲しい。

【2 支援者への活用意欲の向上（既存の様式の活用/新たなオプショナルシートの活用）】

すでに使用している様式にファイルの活用促進のスタンプを押すといった工夫を提案した。また、療育機関を併用している子の事業所同士の情報共有が課題のため、新たなオプショナルシートの作成を提案した。

ことばの教室では、個別の支援計画や発達検査をファイルに綴るよう声掛けをしている。ファイルに綴じる書類は意外とあるので、支援者側もファイルに綴じようという気持ちをどう作るかが大切である。

また、子ども達に関わる支援機関は、事業所や学校、病院など関係する機関が多岐に渡っている。投薬についての情報共有ができていない場合が多い。ファイルに薬状が入っていれば、支援のヒントになる。

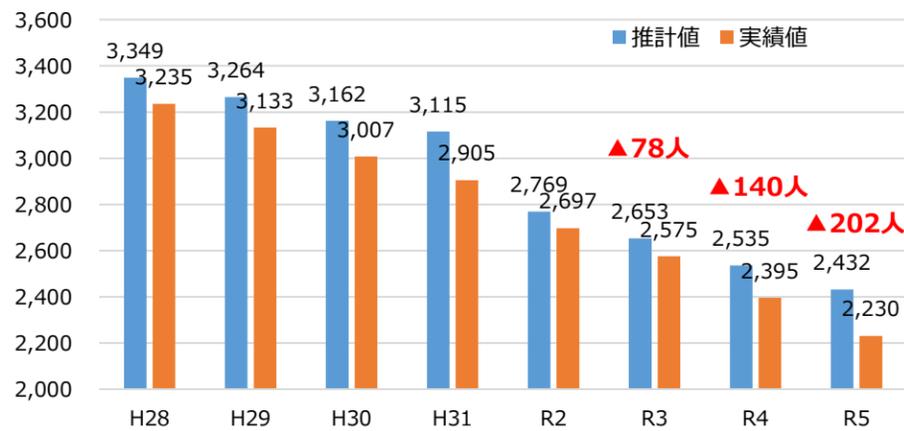
学校では、支援が必要なお子さんに年に 2 回、個別支援計画を作成するため、いずれ全員がファイルを持っている世代になれば、共通の場所として綴ってもらえることができる。親御さんが中心となって、他の支援機関との情報を共有することができるように、ファイルに資料を綴っていくという習慣が普及して欲しい。

事業実施の経過

■必須事項		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1 児童人口の予測	就学前児童数の推移							
	出生数の推移と0歳児保育		・聖十字わくわく保育園（4月）	・こころ保育園（4月）				
	小学校児童数の推移							
4 地域子ども・子育て支援事業	(2)地域子育て支援拠点事業		・ほろむい認定こども園（4月）			・認定こども園岩見沢天使幼稚園（4月）	・認定こども園岩見沢聖十字幼稚園（見込）	
	(3)妊婦健診							
	(4)乳幼児全戸訪問事業							
	(5)養育支援訪問事業ほか							
	(6)子育て短期支援事業							
	(7)ファミリー・サポート・センター事業		・保育サービス講習会(9-10月/2月),受講(19人/8人),修了(17人/7人),登録(8人/3人)	・保育サービス講習会(6-7月/11月),受講(9人/9人),修了(9人/7人),登録(3人/2人)	・保育サービス講習会(6月/11月中止),受講(9人),補講(2人),修了(11人),登録(5人)	・保育サービス講習会(6月/11月),受講(23人),補講(4人),修了(21),登録(4人)	・生活保護世帯、非課税世帯の利用料減免措置	
	(8)一時預かり事業							
	(9)延長保育業							
	(10)病児保育事業					・実施か所数(病後児対応型):1か所→0 ・利用想定人数(人/日)の変更:6人→3人		
	(11)放課後児童健全育成事業		・おはようキッズ事業 R2.12末 登録404人、延利用1,287人	・おはようキッズ事業 R3.12末 登録510人、延利用5,762人	・おはようキッズ事業 R4.12末 登録630人、延利用6,208人 ・栗沢小クラブを来夢21こども館に統合	・おはようキッズ事業 R5.12末 登録688人、延利用6,847人		
	5 幼児期の学校教育・保育の一体的提供	幼児教育と保育の質の確保		・保育士等確保対策事業 幼:2園4人、保:6園6人	・保育士等確保対策事業 幼:2園2人、保:4園6人	・保育士等確保対策事業 幼:2園4人、保:3園5人	・保育士等確保対策事業 幼:1園1人、保:4園4人(見込)	
■任意記載事項(市が目的に応じて実施する事業)								
7 子どもの教育と遊び環境の充実	(5)児童療育の充実	・えみふるふあいる配布(9月-)	・専門部会(2月)	・専門部会(えみふるふあいる)(2月)	・専門部会(えみふるふあいる)(2月)	・専門部会(えみふるふあいる)(2月)		
	(6)あそび環境の充実			・療育関連遊具等の充実		・安全設備の充実(大型遊具下マットレス)		
9 児童虐待の防止								
10 子どもの貧困対策とひとり親家庭の自立支援	(1)相談支援				・専門部会(ヤングケアラー)開催(6、10月) ・ヤングケアラー研修会(2月)	・ヤングケアラー研修会(7月) ・専門部会(ヤングケアラー)(12月)		
	(2)教育支援		・子ども体験活動事業補助金(5件) ・学力向上対策事業(8-10月) 送迎バス利用登録者 36人/156人	・子ども体験活動事業補助金(7件) ・学力向上対策事業(8-11月) 送迎バス利用登録者 16人/72人	・子ども体験活動事業補助金(7件) ・学力向上対策事業(8-11月) 送迎バス利用登録者 40人/282人 オンデマンド利用登録者 134人/282人	・子ども体験活動事業補助金(6件) ・学力向上対策事業(8-2月) 送迎バス廃止(全てオンデマンド化) オンデマンド利用登録者 341人		

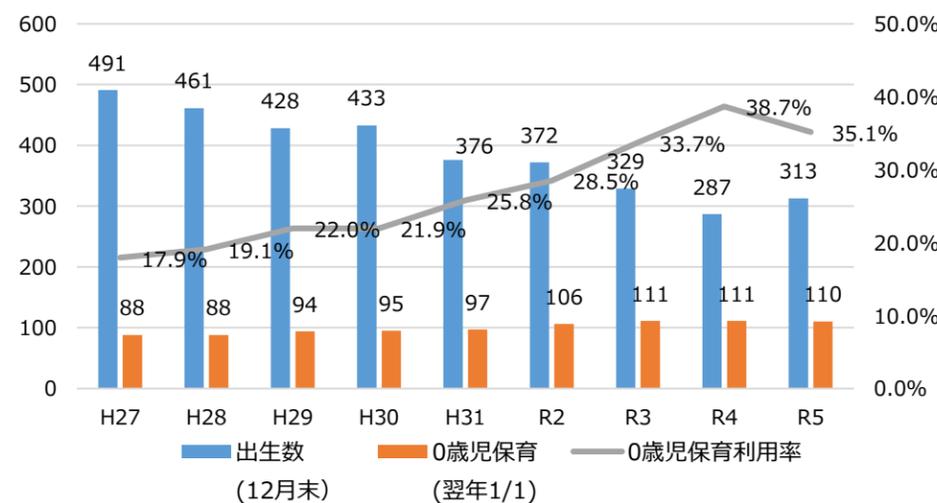
子どもの数の推移

4/1現在 就学前児童数の推移(推計値との比較)



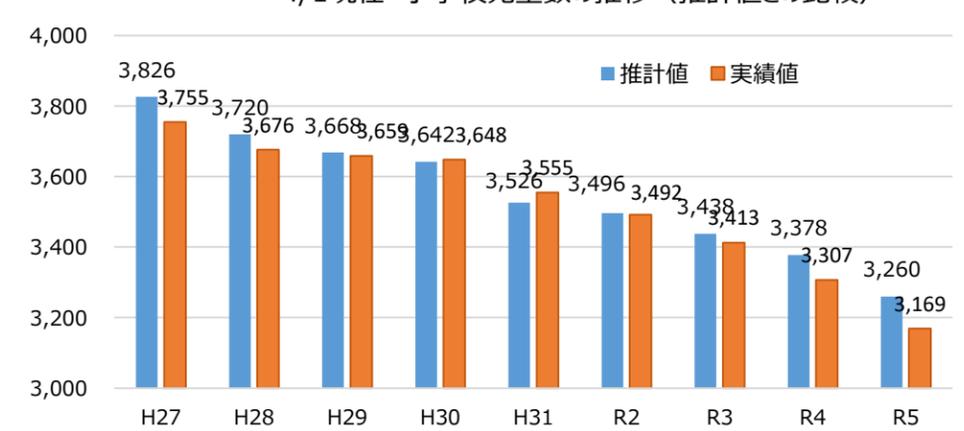
就学前児童数は、第2期プランの策定時に予測した子どもの数が、推計を上回るペースで減少しています。令和5年4月の児童数は、推計値よりも202人、約8%下回っています。

出生数の推移と0歳児保育利用率



出生数は、平成27年以降多少の存減がありつつも、全体的には減少傾向が続いています。また、0歳児(乳児)の保育所利用率は上昇傾向にあります。

4/1現在 小学校児童数の推移(推計値との比較)



小学生の数は、平成27～29年度には推計を下回ったものの、平成30～31年度は推計値をやや上回り、令和2年度もほぼ横ばいでしたが、令和3年度から再び推計値を下回っています。

特定教育・保育

■1号認定 幼稚園及び認定こども園（1号枠）

（単位：人）

		R1	R2	R3	R4	R5
①利用人数		(839) 737	(803) 689	(771) 648	(724) 595	(689) 511
②定員	特定教育・保育施設	795	795	765	765	480
	認定こども園	27	42	42	42	117
	計	822	837	807	807	597

※利用人数上段（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込み。
※利用人数下段は各年度は4月1日現在値を記載。

■2号認定 3歳以上の保育所及び認定こども園2号枠、へき地保育所

（単位：人）

		R1	R2	R3	R4	R5
①利用人数		(693) 734	(633) 725	(607) 733	(570) 696	(543) 699
②定員	認可保育所	522	492	492	492	492
	認定こども園	58	111	111	111	141
	その他 （認可外、企業主導型ほか）	126	42	42	42	42
	計	706	645	645	645	675

※利用人数上段（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込み。
※利用人数下段は各年度は4月1日現在値を記載。

■3号認定 3歳未満の保育所及び認定こども園3号枠、地域型保育、へき地保育所等

（単位：人）

		R1	R2	R3	R4	R5
①利用人数		(493) 516	(524) 542	(500) 524	(488) 481	(473) 465
②定員	認可保育所	438	378	378	378	378
	認定こども園	47	84	84	84	84
	特定地域型保育事業	57	76	76	76	76
	その他 （認可外、企業主導型ほか）	54	45	45	45	45
	計	596	583	583	583	583

※利用人数上段（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込み。
※利用人数下段は各年度は4月1日現在値を記載。

地域子ども・子育て支援事業

（2）地域子育て支援拠点事業

事業概要	乳幼児及びその保護者が相互の交流を行う場所を開設し、子育てについての相談、情報の提供、助言その他の援助を行う事業。	
進捗状況	R2.4 新規開設	ほろむい認定こども園の開設にあわせ、こども園内に地域子育て支援センターを開設。

【人】

	R1	R2	R3	R4	R5
量の見込み（人）	-	(20,558) 14,354	(19,653) 13,483	(19,176) 14,502	(18,551) 11,005

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。
※R5は12月31日現在値を記載。

（3）妊婦健診

事業概要	妊娠の届出があった妊婦に対し、健康診査等を妊娠前期、後期に専門の医療機関に委託し、妊婦の健康保持・増進を図る事業。
進捗状況	当初の計画通り事業を推進している。

【人、件】

	R1	R2	R3	R4	R5
受信票交付件数	(562) 398	(433) 488	(413) 417	(394) 412	(376) 336
健診回数	(7,740) 5,046	(4,646) 3,896	(4,432) 3,684	(4,228) 3,615	(4,034) 2,500

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。
※R5は12月31日現在値を記載。

（4）乳幼児全戸訪問事業

事業概要	保健師又は助産師が、生後4か月までの乳児のいる家庭を訪問し、乳児の発育・母親の健康状態を把握し、指導や助言、情報提供を行うことで、育児不安を解消するとともに孤立化を防ぐことを目的とした事業。
進捗状況	当初の計画通り事業を推進している。

【人、件】

	R1	R2	R3	R4	R5
訪問件数	(284) 159	(245) 212	(230) 216	(220) 202	(210) 142

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。
※R5は12月31日現在値を記載。

（5）養育支援訪問事業、子どもを守る地域ネットワーク事業

事業概要	養育支援が特に必要な家庭に対して、その居宅を訪問し、養育に関する指導・助言等を行うことにより、当該家庭の適切な養育の実施を確保するほか、また、要保護児童対策地域協議会（子どもを守る地域ネットワーク）の機能強化を図るため、調整機関職員やネットワーク構成員（関係機関）の専門性強化とネットワーク機関間の連携強化を図る事業。	
	養育支援訪問	乳幼児健診時などを通じて、養育支援が必要と判断された場合、保健師等が定期的に訪問する。
	産前産後ヘルパー	妊娠届時から子どもが1歳になるまでの間、希望に応じてヘルパーを派遣し、身体的精神的負担を軽減する。
進捗状況	R4.4より特別育児支援ヘルパーをヤングケアラー世帯へ対象拡充	ヤングケアラーのいる世帯において、要対協で支援が必要であると認められた家庭に対し、特別育児支援ヘルパーを派遣する。

【人】

	R1	R2	R3	R4	R5	
訪問延人数	養育支訪	(250) 195	(818) 157	(803) 114	(793) 120	(783) 103
	産前産後へ	(570) 583	(-) 295	(-) 259	(-) 209	(-) 165
	特育支へ	(-) 25	(-) 47	(-) 42	(-) 45	(-) 43

※（ ）内は計画策定時（R1はH26年度、R2以降はR1年度）における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

地域子ども・子育て支援事業 つづき

(6) 子育て短期支援事業(ショートステイ)

事業概要	保護者が疾病等の理由により、家庭での養育が一時的に困難となった児童を児童養護施設等において、養育する事業。短期間の宿泊で子どもを預かるショートステイと平日の夜間などに一時的に子どもを預かるトワイライトステイがある。	
進捗状況	H27.4 ショートステイ開始	児童養護施設「光が丘学園」に委託し、事業実施。利用者増に伴う受け皿確保のため、現在は里親3家庭へ委託。
	H29.4 トワイライトステイ開始	〃

【人日】

		R1	R2	R3	R4	R5
利用日・延人数	ショートステイ	(37) 7	(311) 92	(298) 136	(284) 16	(273) 26
	上記の内トワイライトステイ	0	1	0	2	18

※()内は計画策定時(R1はH26年度、R2以降はR1年度)における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

(7) ファミリー・サポート・センター事業

事業概要	地域において、育児の預かり等の援助を希望する人と、援助を行う人との相互援助活動に関する連絡、調整を行う事業。	
進捗状況	R5.6、R5.11 保育サービス講習会	R4.4より病児・病後児の預かりを開始。「ファミリーサポートはおはお」に業務を委託。提供会員の確保のため、保育サービス講習会を2回開催。

【人日】

		R1	R2	R3	R4	R5
援助活動件数		(45) 427	(485) 409	(476) 454	(468) 411	(452) 327
	うち病児・病後児	-	-	-	1	28
実施箇所数		1	1	1	1	1

※()内は計画策定時(R1はH26年度、R2以降はR1年度)における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

(8) 一時預かり事業

事業概要	家庭等において保護者が病気等で、一時的に育児を受けることが困難となった乳幼児について、主として昼間において、保育所等で一時的に預かり、必要な保育を行う事業	
事業概要	認定こども園 幼稚園	幼稚園終了後、引き続き保育を希望する保護者のニーズに応えるため、在園児を幼稚園において預かり、保育を実施する事業
	保育所	市内在住の保護者が病気や出産、就職活動などで、一時的に子どもの保育ができない時に保育所で預かる事業
進捗状況	認定こども園 幼稚園	市内全ての幼稚園において、幼稚園終了後、在園児の預かり保育を実施している。
	保育所	ふれあい子どもセンター、日の出保育園の2か所で午前8時から午後6時までの8時間を限度に実施している。

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4	R5
利用人数合計		(41,567) 31,946	(41,401) 37,192	(39,676) 39,573	(37,272) 32,277	(35,508) 27,993
認定こども園 幼稚園	利用人数	31,865	37,130	39,527	39,610	27,923
	実施箇所	5	8	8	8	8
保育所	利用人数	81	62	46	67	70
	実施箇所	2	2	2	2	2

※()内は計画策定時(R1はH26年度、R2以降はR1年度)における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

(9) 延長保育事業

事業概要	保育認定を受けた子どもについて、保育標準時間(11時間)または保育短時間(8時間)の利用時間の前後の時間において、保育を実施する事業
進捗状況	引き続き認定区分に対応する保育時間を超えて、保育が必要な世帯の延長保育を行う。

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4	R5
利用人数		(631) 488	(323) 472	(310) 419	(296) 476	(284) 384
実施箇所		13	13	13	13	13

※()内は計画策定時(R1はH26年度、R2以降はR1年度)における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

(10) 病児保育事業(病児・病後児保育事業)

事業概要	子どもが病気のとときや病気の回復期にあるため、保育所等での集団保育ができない時などに、専用の施設で一時的に保育を行う事業
進捗状況	病児保育1か所、病後児保育1か所、定員各3名で実施してきたが、R4以降は病児保育1か所定員3名。 ※病後児保育はR4.3.31をもって廃止

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4	R5
利用延人数		(1,724) 133	(741) 50	(710) 135	(679) 88	(651) 174
	実施箇所	2	2	2	1	1

※()内は計画策定時(R1はH26年度、R2以降はR1年度)における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

(11) 放課後児童健全育成事業(放課後児童クラブ)

事業概要	保護者が労働等により昼間家庭にいない小学生に対し、放課後に児童館等を利用して、主体的なあそびや生活の場を提供し、その健全な育成を図る事業。	
進捗状況	H30.4 対象学年拡大	対象児童を小学3年生までから小学6年生までとし、小学校等にクラブ室を新たに整備し、全21か所(25の支援の単位)で受け入れしている。
	R2.4 おはようキッズ事業	シルバー人材センターに登録する高齢者の協力を得て、通常8時半からの預かり時間を1時間早め、7時半から児童の見守りを実施し保護者の就労を支援。

【人・箇所】

		R1	R2	R3	R4	R5
1日当たり利用児童数	低学年	(463) 784	(738) 741	(710) 688	(703) 662	(670) 650
	高学年	(222) 249	(462) 252	(463) 270	(452) 284	(441) 293
	実施箇所数	22	26	26	25	25

※低学年：1～3年 高学年：4～6年
※()内は計画策定時(R1はH26年度、R2以降はR1年度)における量の見込みを示す。
※R5は1月31日現在値を記載。

子どもの体験活動補助金

- 目的・事業概要

子どもの貧困対策の一環として、家庭の状況によって、習い事など子どもの体験機会に差があることを踏まえ、子どもが自分の意志で活動に参加できる機会や場所を提供する団体の活動を支援する。公募・審査により採用された6団体の取り組みに対し、上限10万円を補助した。
- 活動実績と成果

名称	マロンドリームレクリエーション	子どものためのヨガ教室	びびか泥だんごをつくらう
事業の目的	・町内清掃 ・栗沢玉入れ選手権体験会 ・キンボール体験会 等	・ヨガのポーズや呼吸法の実践 等	・道産の珪藻土を使用して、光る泥だんごを作成
参加対象・開催回数など	・0～15歳を対象 ・全7回程度の予定	・小学生及び中学生を対象 ・全6～8回程度の予定	・6歳～ ・全3回の予定
広報活動、創意工夫点など	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載、学校経由でチラシ配布 ・地域の伝統行事やお祭りにおいて多世代交流する機会を提供	・市教委の後援をとり、児童館を中心にチラシの配布 ・児童館行事の一環として児童館だよりで周知 ・身体と思考を働かせるヨガポーズで子どもが楽しめるプログラムとした	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載 ・最寄りの小学校にチラシを配布 ・他では体験できない独自の遊びを提供し、マスター認定書等を交付

名称	体を動かす遊びにチャレンジ	フルーツバスケット遊ぼう会	なないろアートプロジェクト
事業の目的	・外遊び ・道具を使った遊び ・ボール遊び 等	・屋内外での楽しい遊びや交流 ・こども食堂 等	・子ども達がアートを通して楽しく自己表現できる機会をつくる ・完成した作品の展示 等
参加対象・開催回数など	・中学生まで ・全15回程度の予定	・小中学生を対象 ・年10回程度の予定	・未就学児から中学生以下 ・年4回程度の予定
広報活動、創意工夫点など	・SNSの活用やチラシの配布 ・未就学児等がいた場合、保護者と一緒に遊び、保護者同士の繋がりを創る	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載、学校経由でチラシ配布 ・障がいのあるなしに拘らず一緒に遊べる工夫をして開催	・市教委の後援をとり、市広報紙に掲載 ・最寄りの小学校にチラシを配布 ・ホスピタルアートの要素を持ちつつ、自己表現の楽しさを知ってもらう

- 今後の予定

令和5年度事業は3月末で終了。次年度の予算も同額を確保し、各活動を支える予定。今年度で補助が終了となる団体はいずれも活動継続の見込みのため、引き続き周知活動・実施体制構築等について支援していく。
今年度からの新規活動は、今年度の成果と課題を踏まえ、子どもたちと主催者にとってより効果的な活動になるよう引き続き支援をしていく。

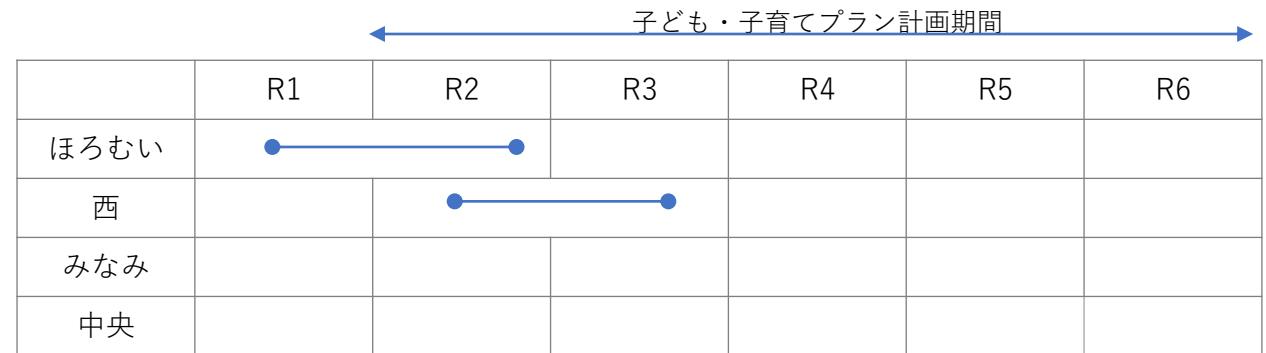
保育所の耐震改修

- 目的・事業概要

子どもの安全を確保し、質の高い保育環境を提供するため、耐震改修を実施する社会福祉法人に対し、国の補助制度に基づき、建築費用を補助する。

- 今後の整備予定

みなみ保育園は令和5年度に実施を予定していたが、物価高騰等により実施を見送り。令和5年10月を目途に令和6年度の実施有無を判断するとしていたところ、見送りと判断した。
中央保育園も令和5年度～6年度の2か年で予定していたが、物価高騰等の影響により実施を見送り。具体的な実施時期は未定。



保育士確保対策

- 目的・事業概要

質の高い保育と幼児教育を安定的に提供するため、法人による保育士・幼稚園教諭の採用活動を支援するため、新規学卒の資格者に対して就職準備金を支給した法人に対し、20万円を上限に補助する。
第2期子ども子育てプランの対象期間である令和6年度までの時限制度。

■ 補助金交付実績

	R2		R3		R4		R5(見込)	
	園	人	園	人	園	人	園	人
保育所	6	6	4	6	3	5	4	4
幼稚園	2	4	2	2	2	4	1	1
計	8	10	6	8	5	9	5	5

よいこのくに幼稚園の認定こども園移行の中止について

《経緯》

- 令和5年3月2日開催の「令和4年度第2回子ども・子育て会議」において、よいこのくに幼稚園の認定こども園への移行を承認
- 令和5年9月、よいこのくに幼稚園より、職員の退職により移行に必要な人員配置を確保できないことから、令和6年4月1日の移行を断念する旨の申出があった。

《今後について》

現時点では移行を断念する理由となった職員の充足はできておらず、また園児数の減少傾向から定員の見直しも視野に入れ、移行計画の検討を継続する。

特定教育・保育施設等の定員

(単位：人)

	施設名	令和4年度					令和5年度					令和6年度				
		1号	2号	3号		合計	1号	2号	3号		合計	1号	2号	3号		合計
				0歳	1・2歳				0歳	1・2歳				0歳	1・2歳	
特定教育・保育施設	認可保育所小計		492	96	282	870		492	96	282	870		492	96	282	870
	栗沢認定こども園	15	30	3	12	60	15	30	3	12	60	15	30	3	12	60
	ひがし認定こども園	12	31	8	21	72	12	31	8	21	72	12	31	8	21	72
	ほろむい認定こども園	15	50	8	32	105	15	50	8	32	105	15	50	8	32	105
	天使幼稚園	105				105	75	30			105	75	30			105
	聖十字幼稚園	120				120	105				105	75	30			105
	めぐみ幼稚園	210				210	120				120	120				120
	駒沢幼稚園	210				210	150				150	150				150
	よいこのくに幼稚園	120				120	105				105	105				105
	小計	807	603	115	347	1,872	597	633	115	347	1,692	567	663	115	347	1,692
特定地域型保育事業	小計	0	0	15	61	76	0	0	15	61	76	0	0	15	61	76
その他	小計	0	42	6	39	87	0	34	6	36	76	0	34	6	36	76
合計		807	645	136	447	2,035	597	667	136	444	1,844	567	697	136	444	1,844

量の見込み (人)	619	680	84	283	1,666
乖離 (量/定員)	103.7%	101.9%	61.8%	63.7%	90.3%

	575	632	79	266	1,552
	101.4%	90.7%	58.1%	59.9%	84.2%

各年度の主な変更点

- 令和4年度の変更点
 - ・特になし

- 令和5年度の変更点
 - ・天使 認定こども園移行
 - ・聖十字 定員の減
 - ・めぐみ 定員の減
 - ・駒沢 定員の減
 - ・よいこ 定員の減
 - ・幌達布 廃所

- 令和6年度の変更点
 - ・聖十字 認定こども園移行
 - ・よいこ 認定こども園移行
 - 1号 60人
 - 2号 45人